特別展 | Special Exhibition　特別展示室

（特別展示室）生誕120年　前田政雄展　4月14日（日）まで

4/27（土）—6/16（日）

熊谷孝太郎　間世潜　時の彼方へ　函館から

Hakodate Photography: The Work of Kumagai Kotaro and Mase Hisomu

大正後期から昭和初期にかけて、函館十字街を中心とした繁華街とそこを行き交う人々の様子を集中的に撮り続けた熊谷孝太郎（1893～1955）。函館近郊にあるトラピスチヌ修道院での生活を取材した写真をはじめ、舞台写真や人物写真などを撮影した間世潜（1904～1959）。本展では、函館ゆかりの二人の写真家の作品を紹介します。

熊谷孝太郎
《恵比須町電停前》
大正後期撮影

間世潜
トラピスチヌ大修道院《晩鐘》
1951（昭和26）年頃撮影

観覧料　一般920（720）円　高大生610（410）円
小中生300（200）円　＊（　）内は前売・団体・リピーター

6月28日（金）～7月4日（木）　貸館

第65回北海道書道展函館展

主催／同展実行委員会　北海道新聞函館支社

観覧料／300（200）円　高校生以下無料　※（　）内は前売

7/13（土）—9/23（月・祝）

光ミュージアム所蔵
美を競う
肉筆浮世絵の世界展
北斎、広重、英泉、国芳、芳年など

Compete in beauty:
World of Ukiyo-e paintings from the HIKARU MUSEUM collection

肉筆浮世絵は、絹本や和紙に直筆で表現されたもので、豪華な着物の文様、結髪の毛筋の精緻な描写など、絵師の技量が発揮された貴重な一点ものです。本展では、光ミュージアム（岐阜県高山市）が所蔵する肉筆画コレクションのなかから111点を厳選し、江戸時代中期から明治時代にわたる肉筆浮世絵の歴史的展開を紹介します。

溪斎英泉
《立ち美人》1818-30（文政年間）

葛飾北斎
《日　龍　月》
1800-08（寛政12～文化5）年

観覧料　一般1300（1100）円　高大生800（600）円
中学生500（400）円　＊（　）内は前売・団体・リピーター

10月1日（火）～10月6日（日）　貸館

赤光社美術協会百周年記念展

主催／赤光社美術協会　共催／北海道新聞函館支社

観覧料／700（600）円　大学生以下無料　※（　）内は前売

10/13（日）—12/8（日）

蠣崎波響と松前の至宝
アートギャラリー北海道　蠣崎波響生誕260年

Art Gallery Hokkaido:
Kakizaki Hakyo and Masterpieces of the Matsumae Domain

松前藩が居所とした日本最北の城下町・松前町近郊では、早くから美術文化が醸成されてきました。また、2024年に生誕260年を迎える蠣崎波響は、松前藩家老もつとめた著名な文人画家です。

本展では、波響を中心とする松前藩ゆかりの日本画家たちの優品、幕末・明治期の古写真、工芸、2018年に国指定重要無形民俗文化財に指定された松前神楽関連資料などを紹介。この地域が育んできた比類ない名品により、松前文化の粋をお楽しみいただきます。

湿板写真
（松前家十七世　崇廣）
松前町教育委員会蔵

蠣崎波響
《柴垣群雀図》
1796（寛政8）年
松前町教育委員会蔵

観覧料　一般920（720）円　高大生610（410）円
小中生300（200）円　＊（　）内は前売・団体・リピーター

12/21（土）—2025年 3/30（日）

文字の芸術をめぐる旅　文字ってアートなの？

Is Writing Art?: A Journey through Textual Imagery in Calligraphy, Painting, Printing, and Crafts

約2,000点の当館コレクションの核となる〈文字・記号に関わる美術〉〈書と東洋美術〉の作品を中心に紹介します。意味をもつ文字や言葉は、文字どおりの意味に加えて、アートとして表現されることによってさらに意味が付け加えられることもあります。多様な文字を使った作品の意味を探りながら、その魅力に迫ります。

三島喜美代
《NEWS PAPER F－87》
1987（昭和62）年
当館蔵

金田心象
《樹影半窓》
1976（昭和51）年
当館蔵

観覧料　一般510（410）円　高大生300（200）円
65歳以上及び小中生は無料　＊（　）内は前売・団体・リピーター

2024

4	5	6
1		
8		
15		
22		
29		

7	8	9
1		
5		
12		
19		
26		

10	11	12
1		
6		
13		
20		
27		

2025

1	2	3
1		
6		
13		
20		
27		

ミュージアム・コレクション | Permanent Collection Gallery　鷗亭記念室／常設展示室

観覧料：一般260（210）円、高大生150（110）円　※（　）内は10名以上の団体料金。

（鷗亭記念室）中野越南展、（常設展示室）新収蔵品展　4月14日（日）まで

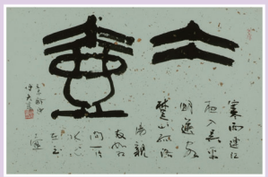
春～夏　4/27（土）—9/23（月・祝）

鷗亭記念室

金子鷗亭Ⅰ期
漢字にこめた心 Emotional Kanji Calligraphy

漢字は、たった一文字で文字の意味を表し、様々な書体で表現されることで書家の心情を伝えます。一字書や少字数書のほか、詩文書などに見られる漢字に注目し、その魅力に迫ります。

1968（昭和43）年　手島右卿《妙》　当館蔵



2004（平成16）年　石飛博光《王昌節詩　芙蓉楼送辛漸》　当館蔵

常設展示室

4/27（土）—7/4（木）

生誕120年
長谷川潾二郎とその兄弟
～越境する表現者たち～

Transcendent Creators:
Hasegawa Rinjiro and His Brothers

函館出身の長谷川潾二郎とその兄弟（海太郎、濬、四郎）。それぞれ海外へ飛び立ち、研鑽を積んだ彼らの個性あふれる作品世界をめぐります。

長谷川潾二郎《マンドリン》
1923（大正12）年　当館蔵

7/13（土）—9/23（月・祝）

道南の精鋭シーズン2
第1回　ささきようすけ展
～ひとつとして区切らない～

Artists from Southern Hokkaido
(Season 2, Part 1): Sasaki Yosuke

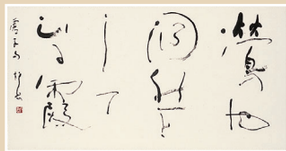
道南ゆかりの美術家を紹介するシリーズ展。今回は、函館を拠点にユニークな造型活動を展開する、ささきようすけの作品を紹介します。

秋～冬　10/1（火）—12/8（日）

鷗亭記念室

金子鷗亭Ⅱ期
俳句の書 Haiku Calligraphy

5・7・5の短い表現形式による世界を、書家たちはどのように表しているのか、句と書をあわせてお楽しみください。



千葉軒岳《高浜虚子句　鶯》1997（平成9）年　当館蔵

少女たちの夢　味戸ケイコ展

The Dreams of Girls:
The Illustrations of Ajito Keiko

「詩とメルヘン」など数々の雑誌や絵本に、独特の幻想的な雰囲気の作品を発表してきた函館出身のイラストレーター、味戸ケイコの世界を紹介します。

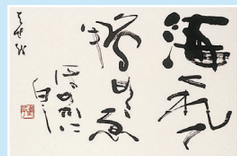
味戸ケイコ《五月のスカート》
2017（平成29）年　当館蔵

冬～春　12/21（土）—2025年 3/30（日）

鷗亭記念室

金子鷗亭Ⅲ期
海を書く Sea Calligraphy

金子鷗亭をはじめとする書家による、海にまつわる言葉を題材にした書の世界と、鷗亭がコレクションした朝鮮磁器の水滴をご覧いただきます。



金子鷗亭《松尾芭蕉句　海くれて》
1979（昭和54）年　函館市蔵（当館寄託）

港町函館　今・昔

Past and Present Images
of the Port Town of Hakodate

幕末の開港地である道南函館を題材に、「港町」のイメージを彷彿とさせる作品を紹介します。

池谷寅一《函館の冬晴》
1974（昭和49）年　当館蔵

2025

1	2	3
1		
6		
13		
20		
27		

2	3	4
1		
8		
15		
22		

3	4	5
1		
8		
15		
22		
29		

▬ は休館日　Closed